

## 令和5年第12回 清瀬市まちづくり委員会議事要旨

### 【開催日時等】

日時：令和5年12月19日(火)午後6時から午後8時

場所：清瀬市役所4階 研修室

### 【出席者】

関根委員長、竹内副委員長、井澤委員、上村委員、有働委員、大森委員、佐合委員、佐々木委員、関委員、田鹿委員、花岡委員、増田委員、前川委員、望月委員、柳瀬委員、山村委員

事務局：市民協働課長、協働係係長、協働係主任

### 【配布資料】

清瀬市まちづくり委員会主催清瀬駅周辺環境アンケート調査結果

### 【議事】

#### 1 開会 挨拶

#### 2 事務局より

##### (1) 配布資料の確認

##### (2) 駅周辺アンケートについて

大森委員が作成したものを委員に送付する。配布資料に修正があれば12月28日までに事務局に連絡する。

##### (3) 令和5年第11回議事要旨の確認

修正なし。ホームページに掲載する

#### 3 前回の振り返り

#### 4 まちづくりフォーラムの振り返り

委員 目的・最終的なものが見えていなかったものでフォーラムまでの準備が整わなくて大変だった。成果物をつくるための割り振りをしてから準備に入った方が良かった。

委員 準備が間に合わず、提言の内容や評価報告、発表資料を委員会に諮らずにフォーラムに臨んだことは申し訳なく思う。前年度に評価の土台を作ってくれたからできたと思っている。

フォーラムの内容は前年度より良かった。伝えられることは伝えられたと思う。市長に来ていただけたら良かった。

委員 フォーラムに音楽家の方が来ていただいたことだけでも成功だったと思う。1年目は大変だったが、2年目はまとまったと思う。有識者等の専門家がいるとうまくまとめてもらえるが、全員市民公募なのでまとめが大変だったと思う。専門家がオブザーバーとして参加してもよいのではないかな。

委員 市役所での開催は来場しづらいのではないかなと思った。参加者からたくさん意見が出たが、まちづくり委員会にとっていい意見が出たときは拍手したが、厳しい意見には拍手をしなかったことは反省したいと思う。意見に対して、委員長をはじめ発表者の回答がしっかりしていた。まちづくり委員会として答えられていたので良かった。厳しい意見は次につなげ、突っぱねるものではない。

委員 去年より、よりよく進められた。去年の提言に対して意見が出たときはドキドキしたが、良かったと思う。

委員 提案の発表は良くできた。フォーラムだけがまちづくり委員会と市民との意見交換の場だったが、まちづくり委員から参加者への一方的な発表の場になった。今後、まちづくり委員会と市民が意見交換して同じ方向を向いてできる場を設けてもいいと思う。

委員 若い方が活躍したのは次につながる。いろんな意見があったが、まちづくりについて考えているのは伝わってきた。フォーラムの準備等は中心になって引っ張ってくれる方がいたので進めることができた

委員 市民ではない友人が来てくれた。その方の意見として「レジュメに番号が振ってあるが、資料に番号が振っていないので資料にも番号をつけた方がいいと思う。」というものがあり、その通りだと思った。たくさんの資料があったので、封筒を事前に準備した方が良かった。音楽に関する内容を市長への提言としたことについては実現を楽しみにできる提言になったと思う。提言にするまで、小さな修正でもメール等で全員の確認をとりながら進められたのが良かった。安心して取り組むことができた。

委員 フォーラムをどういう形式でやるのか、どのような目的で実施するのかははっきりしていなかった。「フォーラム」という言葉にはみんなで議論するという要素が含まれているため、参加者と意見の食い違いがあったと思う。来年度以降、フォーラムと言う言葉を使うのであれば「報告」と周知するか「フォーラム」という言葉を使わない方がよい。市民の方と委員が意見交換をしないためおこったことだと思う。本来であれば、ワークショップがその役割を担ったのではないかなと思う。あの場は問題解決の場となったのではないかな。

フォーラムの会場は駅周辺の方が便利がいいというものもあるが、エンドイヤークンサートを市役所でやることを考えると、会場の確保や声かけの方法を考え

た方が良い。市長提言の内容に関係する方に声掛けをするのがいいのではない  
か。

フォーラムの準備については情報共有が重要。毎月の会議２時間だけでは足り  
ないので、メールやLINEを活用した。

委 員 まちづくり委員の皆さんは意識が高い方が多いと思う。会議への参加を重ねる  
ごとに委員の方の考え方や、まちづくり委員の趣旨をわかってきて、フォーラム  
によって最後に結集したと思う。

委 員 フォーラムという言葉については検討の余地はあるが、報告会と思って参加し  
ていた。若い方の活躍が良かった。今回の新しいまちづくり委員会は自分たちで  
企画したり、条例の中身をモニタリングしたり、やった甲斐があった。

フォーラムの案内状を今までの提案者や、関係した方に送る等は必要なこと。  
厳しい意見はあったが、委員会のことを考えてくれているのだと思うので、来て  
くれたことに感謝している。

委 員 直前まで不安があったが、皆さんにサポートしてもらい、皆さんの力でできた  
と思う。安心感をもってフォーラムを過ごすことができた。

いろいろな意見を持っているお客様からの質問は想像をしていなかった質問も  
あったが、フォーラムに集まっている人に敵はいないということは忘れないでい  
たい。清瀬のことを考えている方達だと思うので、協力していただきたいと思  
う。

回答がないと言っていた傍聴者については簡単に回答をできないと思うが、思  
うようにコミュニケーションが取れないのは不満がたまる要因になる。委員と市  
民が相互に理解できる場があった方が良いのではないか。まちづくり委員会は  
大きな権限を持っていると考えている方がいたのでまちづくり委員会のことを知っ  
てもらおう方が良い。

委 員 まちづくり委員会がどういう委員会か、目的は何かというのが委員も参加者も  
理解不足な面があった。フォーラムというタイトルもどうかという意見があった  
ので、検討が必要。時間配分を含め、課題はある。

委 員 提言の内容は素晴らしい提案ができてまちづくり委員として良かったと思う。  
提言の実現で清瀬がよくなると思う。自分が考えるまちづくり委員会と実際の委  
員会のギャップを考えながら参加していたが、本来の委員会の姿を感じた。

委 員 時間で締めたい運営側と意見を言いたい参加者との配分をどうするか。参加者  
の質問に回答なしで終わるのはやめた方がよい。

委 員 内容は去年より充実したものとなった。質問と意見の回答に難しさがあった。

まちづくり基本条例が市の条例の中で上位のため、まちづくり委員会に期待することが大きいのだと思った。参加してくれた方の思いをきけて良かったが、過去に行ったことが間違いであったと言われることは回答が難しい。

過去提言の状況調査等、3、4年前とは違った形で進められるのではないかと  
思う。ワークショップについては、若い方とのワークショップ、過去の委員たち  
とのワークショップが計画されていたが、2年間やった中で整理ができるのでは  
ないか。

委員 アンケートに連絡先を記載している人に連絡して協力してもらった方がいい。

事務局 傍聴者の方に回答をしなかった点だけ補足する。傍聴者の方からいただく意見  
は、まちづくり委員会の運営に関することが多かった。その意見を委員の皆さま  
に展開することで傍聴者が「21人目の委員」となる可能性が高かった。傍聴者  
の意見を皆さんにお伝えすることでその意見に左右されることを防いだ方が良く  
と考え、委員の皆さんに意見をお伝えすることはせず、回答することはしなかつ  
た。

## 5 今期のまちづくり委員会について

委員 まちづくり基本条例に基づいて市民提案を審議して市長へ提言することがそも  
そもの趣旨。それが募集要項に記載されていなかったため、自分の意見が言える  
場と勘違いする方がいると思う。ワークショップ等の新しい取り組みについても  
加味した方が良い。ワークショップ等で委員の個性を発揮できる。

委員 委員会でおこなう内容を事前に確認ができなかったため混乱してしまった。条  
例についての説明、まちづくり委員会の活動は何かをしっかりと伝えた方がいい。  
スタートが肝心。条例や委員会のことがわからない方がくる。具体的に委員会の  
取り組みを教えて共通理解を図る必要がある。

委員 「まちづくり委員は権限があるでしょ」と他市の人に言われた。他の部署等  
に指摘するなどの権限がないことを勘違いさせないようにした方がよい。わかり  
やすくかみ砕いて委員会の目的を募集要項に書く方がいい。委員会の活動におい  
て予算がないことが問題。活動できるよう消耗品等の予算を要求すべき。

事務局 予算要求しているが、予算が付くかどうかはまだわからない。

委員 まちづくり委員の仕事が前回の募集時の市報にはなった。「提言」「審議」と  
いう言葉は書かれているが、どのようなものか書かれていない。「まちづくり」  
とうワードと「報酬もらえる」「ワークショップ」「グループディスカッショ  
ン」という言葉に惹かれたが、思った以上に中立の立場でいなきゃいけないこと  
が後からわかった。「まちづくり」という響きと委員会の目的に実際のギャップ  
がある。

委員 市民からの提案を提言として組み立てていくことが委員会の取り組みだと思っていたが、提言にするか担当部署案件にするか振り分け作業をしている感じだった。条例審査をやらなきゃいけないことがわかって委員に応募したときとギャップがあった。

何かを執行できる権限があると思われる。まちづくり委員会は「市民側」であるべきだが「行政側」と勘違いされているので、誤解されないようにした方がいい。今回のフォーラムの意見交換も同じ市民側のはずなのに「行政側」のような立場になっていたように思う。委員会の内容がわかるようにするとスタートの混乱がない。

委員 応募用紙に「こんなまちにしたい」という内容を書いた。委員になってからまちづくり委員の仕事がわかった。

条例の審議についてはやらなければいけないことだと思った。各附属機関の所管課に「まちづくり基本条例はこういうもの」というのをわかってもらう必要がある。わかってもらい、市民参画が進むような形になるといい。

募集要項にまちづくり委員会の目的を書いてハードルを上げると応募が少なくなるかもしれないがやることは書いた方がいい。

委員 次回の委員会第1回目にまちづくり委員経験者にどのような委員会か話してもらう時間を取ればいいのかではないか。

委員 まちづくり委員会の活動を紹介する必要がある。そのくらいやらないと理解した上での応募は難しいのではないか。応募の内容だが、作文はまちづくりに対する自分の思いを書くことになるので、作文がうまい人が選ばれるのかなと思った。作文ではなくてもよいのではないか。

委員 「まちづくり委員会のあり方検討会」で3年かけて検討してきた。委員を公募するのとき、市報に掲載されている数行では目的等はわからない。

1月に会議を行ったときに市民提案がなかったため委員提案を提出したが、次回の委員会が始まる4月に同じことが起こることを考えた。市民提案の募集の仕方を考えなければならない。

委員会の取り組みだが、大雑把なスケジュールが示されたが、その通りになったわけでもない。

委員 委員募集のときにあまり難しい表現をすると応募ができないと考える方もいるのではないか。私自身が応募用紙に自身が書いた内容については、会議の場で何も話していない。

まちづくり委員と言うのをあまり固く考えないでいいのではないか。市民としてまちづくり基本条例を考えられた。自分が持っているものを持ちながら参加して自分を高めることができればいいのかと思う。

当初、事務局が「市長提言は1つか2つ」と言われたのが頭に残っていた。担当課に調査したときの回答を提案者に返す中で、提言にするために何が必要か考えた。気楽に応募して、委員会に参加する中で考えていくのもいいのではないかな。今回の1年目のようは混乱がなければいい。

委員 まちづくり委員会の目的が何かを考えた。「まちづくり委員会は市民からの提案を深く審議し、ワークショップで市民の声を聴き、条例を審査して市長に提言する。」目的を考え、取り組めるといいと思う。

委員 提案してくれた方に「何故この提案をしたのか」を聞いたかった。まちづくり基本条例上、市民の意見を聞くことが難しいと言われたときに、そこまで厳密に「できない」ことなのかと思った。「市民の側に入っている委員として市民と一緒にできる」といい。以前のまちづくり委員会では、市民提案の内容を確かめるために市内に出て現地確認をしたことがあった。

委員 手探りをしながら作り上げた2年だった。まちづくり委員会のノウハウを伝えることはいい。どのように組み立てるかは次の委員が考えることだと思う。

委員 スタートでわかりやすいことが1番大切。条例がわかりにくいので、わかりやすいように伝えるとよい。

組織改正で担当部署が変わったことで混乱した。事務局の職員が変わっても引継ぎをして混乱しないようにしてほしい。

机上で協議することも大切だが、フィールドワークも必要。

委員 「まちづくり基本条例」とのギャップがあった。条例に縛られなければ、もっと夢が膨らんだと思う。市長提言をした責任をまちづくり委員会が持つべき。そういう思いを次の委員へつなげる必要があるのではないかな。実現できるように、一市民として提言した責任があるのではないかな。

委員 最小限の能力で最大限の効果を出すべきだと思う。次期委員には作業する機会はなくとも Word・Excel・PPT が必要だと予め伝えた方がいい。そもそも、メールアドレスを共有して委員会以外で取り組む必要があるのか疑問。

まちづくり委員会の内容をフォーラムにリンク貼ってフォーラムの周知の際にまちづくり委員会の活動を知ってもらえるようにしたらいいのではないかな。

会議の運営について、労働者世代が参加しづらいのはどうかと思う。子育て世代は特に参加しづらいのではないかなと思う。

まちづくり委員会の目的が2本柱なら、今の活動は店を広げ過ぎではないかなと思う。

委員 条例に定める目的以外に、自分たちがやりたいこと実現する場を設けてはどうか。しかし、間口を広げ過ぎとも考えられる。何を重点的にやるかが重要。

委員 「こういうまちにしたい」という活動ができると思っていたので、できないことにギャップがあった。市民であることと委員であること、中立的な立場であることについて記載した方がいい。

委員 「1」を広げることだと思っていた。軌道修正して参加していた。

## 6 閉会 挨拶